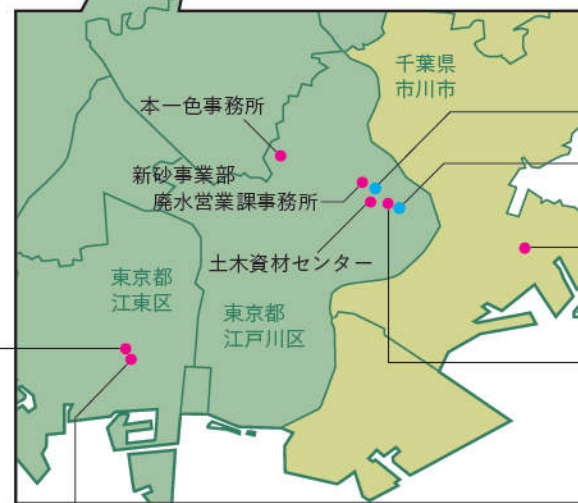
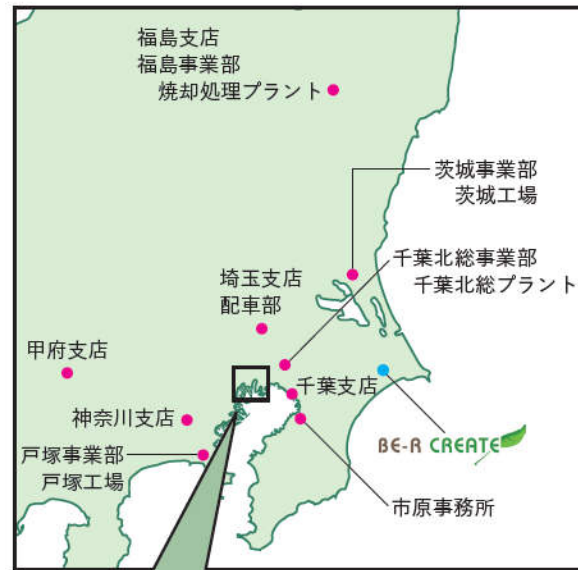


# 100年企業へ!

適正処理で任せて安心



- 株式会社 京葉興業本社
- 三和清運 株式会社
- 市川支店  
テクノ事業部  
ケーヨーテクノサービス
- 新砂事業部  
廃水処理プラント
- 江東支店  
新砂事業部  
改質固化処理プラント
- 東京都江東区
- 東京都江戸川区
- 千葉県市川市
- 土木資材センター
- 駅・アール

### お問い合わせ

〒133-0061 東京都江戸川区篠崎町一丁目2番6号  
TEL: 03-3678-0111  
<https://www.keiyokogyo.co.jp/>



### 【表紙イラストの説明】

篠崎浅間神社（織祭り）

※イラストは本社が所在する江戸川区をモチーフにイメージしています。



篠崎浅間神社（織祭り）

## サステナビリティ レポート

発行日 2026年4月1日



# KEIYOのサステナビリティ

## —100年企業を目指して—



株式会社京葉興業  
代表取締役

鈴木宏和

KEIYOグループの「サステナビリティレポート」をご覧ください、誠にありがとうございます。また、平素より当社事業活動におきましては、多大なるご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。おかげさまで4回目の発行となりました。

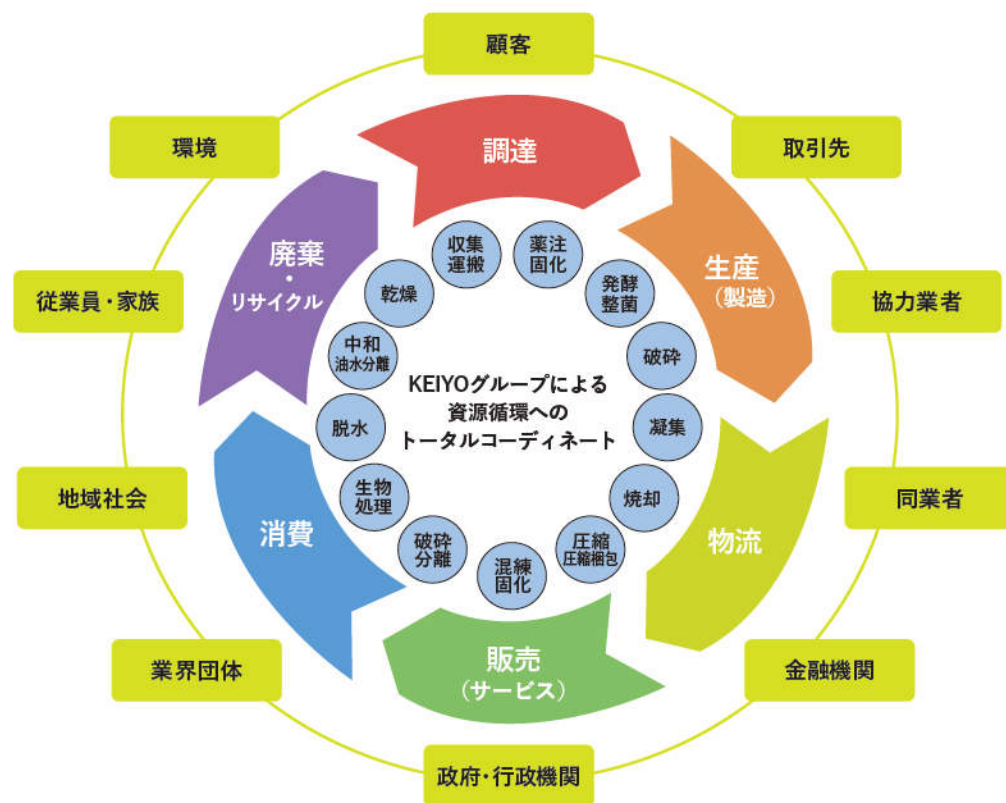
KEIYOグループは、「快適な環境と自然との共生」を企業活動の原点とする環境理念のもと、持続可能な社会の実現を目指しています。サステナビリティの追求こそが、企業価値向上の根幹です。主要事業である廃棄物処理業においては、法令遵守ならびに適正処理に留まらず、資源循環率の向上を使命として捉え、真の循環型社会の推進に貢献するため、AIやIoTといった先端技術を積極的に導入検討し、処理システムの改革とともに環境負荷のさらなる低減に取り組んでおります。

企業が持続的に成長するためには、社会の信頼が不可欠です。お客様、取引先様、地域社会との連携を深めるとともに、「人」を最も重要な資本と捉え、人材育成への投資を強化し、安全で健康的な職場環境づくりを推進しています。また、施設の健全性は事業継続性（BCP）の観点から最優先の経営課題です。私たちは創業以来、長年にわたり培ってきました経営基盤のもと、さらなるガバナンス体制の強化を継続し、透明性の高い事業を進めています。

KEIYOグループは、これからも社会的な課題の解決に貢献し、「より良き生活環境への貢献」と「持続可能な社会の実現」の両立を目指してまいります。

本レポートが、皆様に当社の取り組みをご理解いただく一助となれば幸いです。今後も皆様のご期待に応じることが出来るよう尽力してまいります。引き続き、変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

### サプライチェーンを支える KEIYO グループの事業とステークホルダー



### (株)京葉興業



本社 東京都江戸川区篠崎町  
事業内容：一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物の収集運搬業務・処分業など  
清掃、維持管理、事業活動で発生した廃棄物の収集運搬、中間処理、最終処分までをトータルサポート。「任せて安心」企業としてグループ一丸となり、ステークホルダーの皆さまから信頼され、必要とされる会社を目指します。

### 中間処理施設



#### 改質固化処理プラント 東京都江東区新砂

廃棄物の再資源化、安定化施設  
受入物：インフラ整備に関連する工事で発生する廃棄物など  
廃棄物の性状に合わせた固化材を混練して性質を改質させ、可能な限りセメント資材等としてリサイクルしています。

車両による輸送を船舶へ転換したモデルシフトでCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減



#### 千葉北総プラント 千葉県井市市内

混練固化および水処理施設  
受入物：各種製造工場・インフラ整備に関連する工事で発生する廃棄物など  
分析ラボで廃棄物の性状管理を行い、高度な設備で資源循環率の向上を図っています。完全屋内化によって環境負荷の低減にも寄与しています。



#### ステーション・あーる 東京都江戸川区篠崎町

再資源化処理施設  
受入物：廃プラスチック・金属くず・木くずなど  
廃棄物を選別し破碎や圧縮梱包処理を行い、再資源化に向けて効率的に処理しています。



#### 焼却処理プラント 福島県西白河郡泉崎村

焼却処理施設  
受入物：汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリなど  
安全と適正な処理に基づいた焼却設備により、環境負荷の低減に努めています。

バイナリー発電によりCO<sub>2</sub>排出量を削減



#### 廃水処理プラント 東京都江東区新砂

廃棄物の分解処理、安定化、減容化施設  
受入物：有機性汚泥、し尿混じりの汚泥、廃容器飲料  
廃棄物を生物処理や脱水・乾燥することで、搬入されてきた状態の約2.5%まで減容化され、微生物分解によって生まれるバイオガスは、ボイラー、タービン、乾燥炉の燃料として有効活用しています。

バイオガスを利用して年間約1000tものCO<sub>2</sub>削減



#### 戸塚工場 神奈川県横浜市戸塚区

有機性廃棄物の脱水等処理施設  
受入物：食品に関わる有機性廃棄物など  
有機性廃棄物を効率的に処理。処理後の汚泥は堆肥原料として有効利用し、資源循環に寄与しています。

CH<sub>4</sub>



#### 茨城工場 茨城県小美玉市与沢

発酵堆肥化施設  
受入物：食品に関わる有機性廃棄物など  
有機性廃棄物を微生物分解し、「有機入り肥料いきいき」を製造。自社の試験農場「いきいき」で堆肥の品質を確認し、良質で安全な堆肥として近隣農家などに販売しています。



### 収集運搬・維持管理



本一色事務所(作業部)  
東京都江戸川区本一色  
廃棄物の収集運搬業務・維持管理業務  
散水車やロードスーパー、ごみ運搬車で連帯を組み、落下している廃棄物を収集、路面清掃を行うほか、下水道管路的維持・管理など、街の保全に貢献しています。



配車部  
埼玉県吉川市大字三輪野江  
廃棄物の収集運搬業務  
100台以上の収集運搬車両を保有しており、廃棄物の種類や荷姿、現地の状況などに応じた車両にて運行しています。



テクノ事業部(ケーヨーテクノサービス)  
千葉県市川市原木  
民間車検場(関東陸運局指定工場)  
自社の特殊車両を含む運搬車両や営業車の整備を担当。大型車両から乗用車まで車検、修理、板金塗装、車両販売、各種保険代理店など、幅広くサポートしています。

※収集運搬拠点は東京都江戸川区篠崎町・千葉県市原市・福島県泉崎村にもあります。

# KEIYOの事業と社会貢献

廃棄物処理って、単に廃棄物を処理するだけでなく、再び資源として利用できるように循環型社会の要となっているのね！

プラントでは太陽光発電やバイオガス発電、バイナリー発電を行って、施設で利用する電力を生み出しているね！

## 廃水処理プラント

処理工程においてメタン発酵を行い、バイオマス発電を実施しています。処理後残渣は約2.5%と低水準を実現しています。

## 戸塚工場

有機性廃棄物を凝縮分離及び脱水した汚泥は、堆肥製造の原料としてリサイクルしています。

## 浄水場・下水処理場の清掃作業

## 地域清掃活動

## 災害廃棄物の受入

地震等大規模災害時における災害廃棄物の処理等に関する協定を自治体と締結し、緊急時における事業継続及び早期復旧を支援しています。

## 仮設トイレのし尿処理

## 動物園やレストランの汚泥回収・処理

## 農園

自社で生産した肥料を自社農園や近隣農家などで利用しています。

## 最終処分

資源循環を前提としつつ、どうしても再利用できないものは法令・条例に基づき、然るべき管理のもとで埋立処分をしています。

## 公園の草刈・清掃作業

## 道路清掃

## ステーション・あーる

受け入れた廃棄物はスピーディに選別し、次の処理工程に循環させています。これにより、近隣住民への臭気対策にもつながっています。

## 堤防維持管理

## ビー・アール・クリエイティブ

食品工場等の有機性廃棄物を受け入れ、農地や公共的な緑地等に利用される肥料を生産・販売しています。

## 茨城工場

## ケーヨーテクノサービス

KEIYOグループが有する多種多様な運搬車両の整備ノウハウを、自動車整備ソリューションとして提供しています。

## 千葉北総プラント

設備の安定稼働及び事故防止の基礎情報となる、受け入れる廃棄物の成分管理を強化しています。このほか、太陽光発電の実施、電動化に着手するなど、省エネ・CO<sub>2</sub>排出削減にも取り組んでいます。

## 三和清運

家庭ごみの収集・運搬を行っています。

ここにも、そこにも！ KEIYOグループの事業は社会の資源循環をぐるぐる回すインフラになっているよ！

## 改質固化処理プラント

処理後は適正処理や資源循環、モーダルシフトによる省エネ・CO<sub>2</sub>排出削減に取り組んでいます。また、地域清掃活動や事業所周辺の緑化活動にも取り組んでいます。

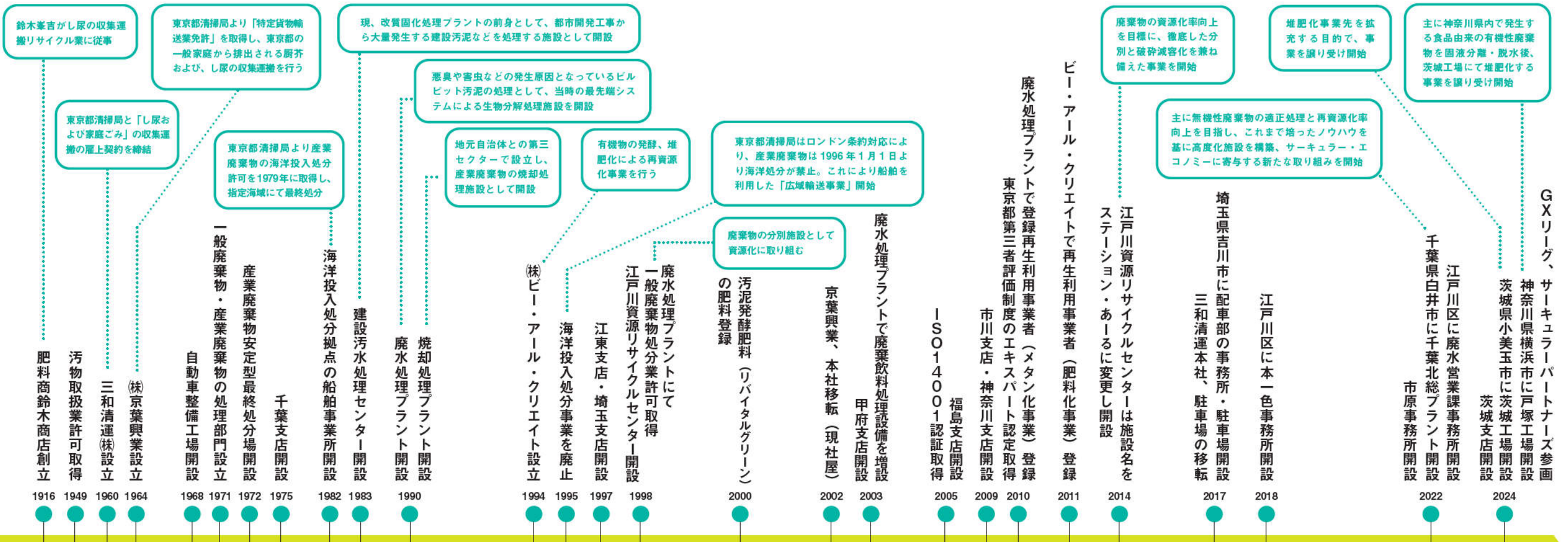
## 焼却処理プラント

プラント周辺の地域住民の皆様には、安心してお過ごしいただけるよう、定期的なコミュニケーションを実施しています。プラントでは、焼却炉の熱を利用したバイナリー発電も実施しています。

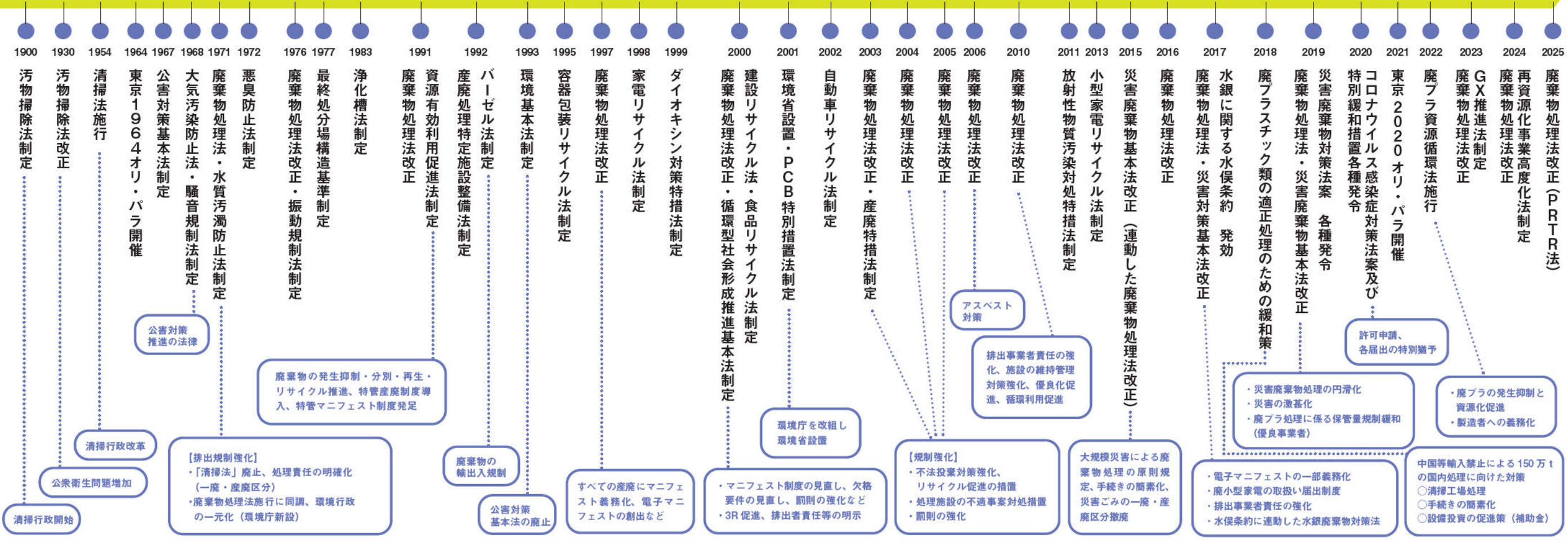
## モーダルシフト

# KEIYO グループの歴史と環境法令の変遷

## KEIYOグループの歴史



## 環境法令の歴史など



# 特集 守ろう！未来の自然 ～高尾山での環境学習～



## 活動概要

2025年10月24日、東京を代表する自然の宝庫である高尾山にて環境学習活動を実施しました。参加者は社内における「環境マネジメントシステム（EMS）」の推進メンバーを中心とする20名。インバウンドに伴う環境負荷やごみ問題を観察し、国連が提唱する持続可能な開発目標（SDGs）との関連性を考えることで、環境保全への理解と意識を深めることを目的としました。

## 高尾 599 ミュージアムでの学び

活動は「高尾599ミュージアム」の見学から始まりました。標高599メートルにちなんだ名称を持つ同館では高尾山の生態系を紹介。昆虫や動植物の標本、プロジェクションマッピングを用いた映像展示を通じて、自然の多様性と保全の重要性を体感しました。



高尾599ミュージアムにて

## 登山とミッション活動

参加者は1号路を登り、4号路を下るルートで登山を行い、4グループに分かれて以下の5つのミッションに挑戦しました。

### ① ごみを拾おう

高尾山応援基金協議会から配布されたごみ袋を利用し清掃活動を実施。高尾山にはゴミ箱が設置されていません。ここは「ごみ持ち帰り運動」の発祥の地としても知られ、観光地におけるゴミ問題に早くから取り組んできました。その取り組みの成果もあり、今回の清掃活動で収集したゴミの量は少なく、地域の環境保全活動が着実に実を結んでいることを確認できました。

### ② おそうじ小僧の像を見つけよう

山麓と山頂で環境美化の象徴「おそうじ小僧」を発見。環境意識の継承を感じました。

### ③ 昆虫・動物・植物を探そう

秋の高尾山で見られるリストを参考に、コガネムシ、クモ、キノコ、トビなどさまざまな生物を観察し、生物多様性の豊かさを再認識しました。

### ④ 観光客の外国人比率を調査しよう

調査の結果、外国人観光客比率は平均31%で、インバウンド増加が環境保全に新たな課題をもたらしていることを確認しました。







登山途中

山頂のおそうじ小僧

### ⑤ 高尾山とSDGsの関連性を考えよう

グループ討議の結果、以下の4つが特に関連性が高いとされました。意見が多い順に紹介いたします。

-  無料で入館できる「高尾599ミュージアム」があり、高尾山の生態系について学べるよう、標本や剥製、映像資料が展示されていた。これにより、誰もが自然環境について理解を深められる教育の場として活用されていました。
-  看板「思い出とゴミは持ち帰ろう」で山のポイ捨てに対する注意喚起をしていた。また、杉の苗木奉納（木そのものや、寄付金）を募っており、森林の整備や自然保護に使われているようでした。
-  登山道は普段履いている靴でも登れるほど整備されており、地域の方や観光客が気軽に登山や自然散策を楽しめる。そのため、身近な運動の場として活用されるだけでなく、森林浴によるマイナスイオンの効果で心身を癒す憩いの場にもなっていました。
-  登山道の整備やケーブルカー、リフトがあることにより気軽に登山できた。また、駅の近くの公園には山歩きで汚れた足元をきれいにする洗い場も整備され、下山後の人たちが賑わっていました。

## 参加者の声

- ・SDGsの観点を意識した自然環境活動を通し、意識の芽生え、視点の多角化を感じられたこと、社員同士のミッションで交流の輪が広がりが有意義な体験ができました。
- ・自然の中での運動を通じて、心身ともにリフレッシュすることができました。また、普段なかなか顔を合わせる機会のない社員と交流を深めることで、楽しいひとときとなりました。

## 成果と今後の展望

今回の活動を通じて、自然環境の保全と持続可能な社会づくりの重要性を再認識しました。高尾山は都市近郊でありながら豊かな自然を有し、インバウンド観光の増加に伴う環境課題も抱えています。私たちは今後も、SDGsの視点を取り入れながら、地域社会と連携し、未来の自然を守る活動を続けてまいります。

### <当日観察できた動植物>



高尾山山頂にて

## SDGs達成に向けた取り組み

KEIYOグループは、SDGsの達成に向けた取り組みを積極的に推進しています。その一環として、各自治体を実施するSDGsを推進する企業を登録する制度に参画し、地域社会との連携を深めながら、持続可能な未来の実現に貢献しています。2025年度には新たに神奈川県、福島県を追加いたしました。この取り組みにより、環境保全や社会的責任の遂行、地域経済の活性化に資する活動を一層強化するとともに、官民連携を通じて持続可能な社会の構築を目指してまいります。



ちばSDGs

ちばSDGsパートナー 1797号

### かながわ SDGsパートナーミーティングへの参加

2025年11月6日、「地域資源を活かした循環型社会の作り方」をテーマに、実践事例や現場の声を通じて、各地域におけるSDGs推進の可能性を探るイベントに参加しました。当日は、参加企業によるパネルディスカッションや、参加者同士の交流を目的としたグループディスカッションが行われ、活発な意見交換がなされました。当社からは、戸塚工場の取り組みとして、外食産業や学校給食などから発生するグリストラップ清掃汚泥を堆肥化して自然へ還元する資源循環の仕組みについて紹介しました。



# 労働安全衛生の取り組み



全国産業資源循環連合会は「産業廃棄物処理業における第3次労働災害防止計画」の中で、第2次からの労働災害防止計画の取り組みを継続的に行うことが不可欠であるとして2023年度からの5年間、死亡災害・死傷災害を2012～2014年度の実績に対し20%以上減少させることを策定しました。これを受けてKEIYOグループでは、労働災害ゼロの実現に向けて各事業所・各従業員が「安全3（スリー）意識（当事者意識・仲間意識・プロ意識）」のさらなる向上に継続して取り組んでいます。

## 安全大会（安全標語）

今年で第13回を迎えた「京葉興業グループ合同安全大会」のイベントとして、安全標語の募集・表彰が行われました。今回は総勢152名（社員119名、社員の家族33名）より総勢319点の応募が集まり、金賞・銀賞・銅賞が選出されました。この取り組みはグループ社員のみならず、その家族を交えた活動で、社員コミュニケーション強化や安全啓蒙活動に役立っています。



## SAFEコンソーシアムへの加盟と安全文化醸成に向けた取り組み



### ① SAFEコンソーシアムへの加盟

2025年10月16日付で、厚生労働省が推進する「SAFEコンソーシアム」に加盟しました。本コンソーシアムは、労働災害の未然防止を“自分ごと化”し、企業間連携を通じて安全で安心な職場環境の実現を目指す取り組みです。これまでKEIYOグループで培ってきた安全活動を積極的に社外へ発信することで、社員のやりがいや達成感の向上、安全意識の醸成、職場の活性化につながってきました。今後も本コンソーシアムが実施する安全衛生分野の表彰制度である「SAFEアワード」への応募を通じて、現場で生まれた改善事例を広く共有し、安全文化の発展に寄与していきます。

### ② SAFEコンソーシアム勉強会への参加

SAFEコンソーシアムが開催する勉強会では、過去にSAFEアワードへ応募した事業所による安全活動の事例紹介が行われ、現場の安全性向上に向けた実践的な工夫やアイデアを学ぶ貴重な機会となりました。

#### ■ 印象的だった取り組み事例

- ・多様なメンバーによる職場パトロール 職層・職種・年齢・性別を越えた混合チームでパトロールを実施することで、多様な視点からの気づきが得られ、従来見落とされていたリスクの発見につながった事例。
- ・改善活動の「見える化」 パトロール後の気づきを行動計画に落とし込み、改善完了件数を数値化することで活動成果を実感しやすくし、取り組みの形骸化を防ぐ工夫。

### ③ 今後の取り組み

勉強会で得られた知見はKEIYOグループの安全活動にも活かし、より実効性の高い安全対策の推進と、安全文化のさらなる定着を図ってまいります。

## 交通安全教育の取り組み

車両事故の未然防止を目的として、2023年9月より交通安全ビデオを毎週配信しています。これらの動画では、運転時に潜在的なリスクとなる事象や、安全運転のために留意すべきポイントを分かりやすく解説し、従業員の安全意識向上に取り組んでいます。

さらに2024年6月からは、「健康管理による事故防止」という観点を加え、日頃の食生活や体調管理に関する動画配信を開始しました。健康状態は運転能力に直結する重要な要素であり、適切な健康管理は事故を防ぐための「予防策そのもの」です。

動画では、健康管理によって低減できるリスクとして、以下のような事故要因を取り上げています。

- ①居眠り運転 ②視力低下 ③急病の発症 ④薬の副作用 ⑤認知機能の低下 など

これらは重大事故につながる可能性が高い要因ですが、日常的な健康管理によって多くを未然に防ぐことができます。当社は、従業員一人ひとりの健康と安全を守ることが持続可能な事業運営に不可欠であると考え、今後も教育コンテンツの充実と継続的な発信に努めます。

## 「健康経営優良法人2025」の認定

当社は、2025年3月10日付で、経済産業省及び日本健康会議が運用する「健康経営優良法人2025（中小規模法人部門）」に認定されました。

本制度は、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。「従業員一人ひとりの心身の健康」を重要な経営課題と捉え、社員のヘルスリテラシー向上に向けた取り組みを行い、健康経営優良法人としての施策を推進します。

- 労働災害の未然防止 ● 快適で安全な職場環境と従業員の健康確保
- 周辺環境への環境確保に努めゼロ災の職場など



## 災害時の速やかな復旧・復興への貢献

KEIYOグループは、災害廃棄物の受け入れ・処理を行える施設を有しています。通常時における社会の資源循環に加え、緊急時においても社会の資源循環を途絶えさせず、適正に処理を行うことで災害による公衆衛生の悪化を低減し、生活環境を保全するとともに、速やかな復旧・復興の実現に貢献します。

### ● 富士山噴火を想定した事業継続計画（BCP）訓練の実施

2025年6月18日、富士山の噴火を想定した事業継続計画（BCP）訓練を実施しました。

2024年8月には宮崎県日向灘で大規模地震が発生し、南海トラフ地震に関する臨時情報が発表されました。一般に南海トラフ地震の発生は富士山噴火を誘発する可能性が指摘されており、広域的な災害リスクが高まっている状況にあります。こうした背景を踏まえ、今回、富士山噴火の発生可能性や噴火時に想定される影響を改めて整理し、事業継続に向けた対応力を強化することを目的として訓練を実施しました。本訓練では、火山灰による施設への影響、交通網の寸断、サプライチェーンへの影響、従業員の安全確保など、複数のシナリオを想定した対応手順を確認しました。

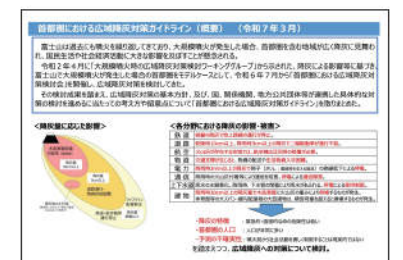
今後も事前の対応策などの検討で、BCPマニュアルの継続的な見直しと改善を進め、災害発生時における事業継続性の向上とステークホルダーへの責任ある対応の実現に向けて尽力します。

### ● 「事業継続力強化計画」の認定

当社は、2025年7月22日付で、経済産業省より「事業継続力強化計画」に認定されました。

本制度は「中小企業強靱化法」に基づき、中小企業が防災・減災の事前対策として策定した計画を、経済産業大臣が認定するものです。不測の事態においても早期復旧によって事業を継続することが社会的責任であると認識しており、この責任を果たすため、迅速な復旧・再開を可能とする事業継続力の強化と、継続的な改善活動に積極的に取り組んでいます。

今後も、事前対策の整備や訓練の実施を含む継続的な改善を通じて、事業継続力の強化に努めます。



※内閣府 首都圏における広域降灰対策ガイドライン（概略）より抜粋



# 地域活動を通じた信頼醸成



KEIYOグループは、地域に根差す事業所としてさらに発展するため、事業所周辺の清掃活動を定期的に行っています。こうした活動を通じて、事業所を設置する地域の皆様に対して、一般にNIMBY(ニンビィ:Not In My Backyard)と呼ばれる施設への不安を払拭し、相互コミュニケーションの機会を設け、KEIYOグループの事業や従業員を信頼いただけるよう努力しています。

## 社員の交流と食品循環のつながり

2025年度も引き続き、農業法人「(株)つながる」にて社員研修を行いました。農場では普段の業務から離れ、土や緑に触れながら社員同士のコミュニケーションが行える場であり、心身をリフレッシュさせてくれるひとときです。気軽に楽しみながら無農薬、無化学肥料の野菜作りを体験します。

### 2025年度の作業内容

社員研修には総勢 130 名が参加しました。

- 4月 長葱・セロリ・おおまさり種まき、里芋植付、枝豆定植…
- 5月 おおまさり種まき、さつま芋植付、長葱・枝豆定植…
- 6月 セロリ鉢上げ・定植、トマト・にんにく・じゃがいも収穫…
- 10月 にんにく植付、小かぶ・さつま芋・里芋・おおまさり収穫…



### 野菜販売

農場ではKEIYOグループのビー・アール・クリエイティブ (株) で製造した堆肥を使用して無農薬有機栽培をしています。栽培された野菜は社内や一般の方たちへ手頃な価格で販売します。“新鮮で美味しい”と大変好評です。

## 事業所周辺の清掃活動など

地域の環境を、「美しく快適な社会」の実現に向け、各事業所では周辺のゴミ拾いや雑草除去などの清掃活動を定期的に行っています。私たちの事業活動における皆様のご理解とご協力へ感謝し、環境美化活動を継続しています。

### 2025年度の作業内容

#### 新砂事業部

- ・江東区“こうとうまち美化応援隊”に参加
- ・周辺道路の美化活動 (1回/月程度)

#### 福島事業部 千葉北総事業部

- ・周辺道路の美化 (1回/月程度)
- ・工場周辺や敷地内へ花植え



美化活動

# 観察と分析による高度な分析管理



KEIYOグループでは、①受入れ前の廃棄物、②受入れ時の廃棄物、③各処理工程の処理物、④処理後物について分析を行い、廃棄物の受入れから搬出までの各段階の品質を確認しています。

全拠点で統一された分析結果管理システムを導入したことで、横断的な分析や結果の共有が可能となりました。廃棄物のリスク評価を適切に行い、環境への配慮と効率的な廃棄物処理の実現に向けて邁進しています。

## 分析業務の高度化による価値創造への挑戦

KEIYOグループは長年にわたり分析技術を蓄積してきましたが、分析機器の進化や社会からの要請は加速度的に変化しています。GX (グリーン・トランスフォーメーション) やサーキュラーエコノミーが求められる時代において、当社はそれらに準拠した中長期経営計画を策定し、計画に基づく取り組みを進めています。

廃棄物処理業における「適正処理」は当然の責務であり、その先にある“廃棄物を原材料として捉え、価値ある製品へと転換する”循環経済の実現を目指している中で、当社が取り扱う多くの処理困難物や工場系・官庁系廃棄物は、まさに未利用資源です。これらをどのように製品化し、市場へ送り出すか。その答えを導く要因のひとつが分析業務であり、物を作る上での「品質管理」の強化にほかなりません。

「現状維持は後退である」という危機感のもと、静脈産業から動脈産業へと視点を広げ、従来の“適正処理のための分析”という位置づけから脱却し“製造業”としての視点を持つことが重要です。成分分析=品質管理という考え方を徹底し、製品としての価値を生み出す分析へと進化させていきます。

ICP-MSをはじめとする高度分析機器の活用やラボ機能の強化を進め、分析精度と処理能力の向上を図っています。また、管理者、各施設の分析担当者、営業部門で構成する「分析業務向上ワーキンググループ会議」を定期的に行い、問題点の抽出や改善、情報共有による業務効率化を推進しています。営業部門も参画することで、顧客ニーズを起点とした情報の一元化が進み、より迅速かつ精度の高い分析体制の構築を目指しています。これらの取り組みを通じて、当社は循環型社会に適した価値ある企業体制を構築してまいります。

当社が目指すのは「京葉興業だからこそ価値が生まれる」企業への進化です。その実現のために、廃棄物を原材料と捉え、品質管理を徹底し、循環経済に資する製品を生み出す。この挑戦を、当社は全社一丸となって推進していきます。



分析作業の様子

## 茨城工場における管理体制

茨城工場では、農作物にとって安全・安心で、かつ生育に有効な堆肥を安定的に供給するため、発酵堆肥化プラントと自社試験農場を併設した一体型の生産体制を構築しています。主に食品加工工場から排出される汚泥や動植物性残さを受け入れ、適切な処理を経て堆肥化し、有機肥料「いきいき」として近隣農家や農業法人へ提供しています。

堆肥製造工程は「①受け入れ→②混合(含水率調整)→③発酵(温度管理)→④攪拌(粒度調整)→⑤出荷」の順に進みます。原料には副資材(木くず)と戻し堆肥(種菌)を混合し、発酵を促進するため含水率を調整しています。

発酵は堆積式発酵方式を採用し、エアレーションや切り返しにより堆肥内部へ酸素を供給。水分・温度・発酵ムラを改善することで、発酵温度が80℃以上となり、病原菌、寄生虫・昆虫の卵、雑草種子の確実な死滅を実現し、年間平均45日間の発酵期間で製品化されます。

また、工場敷地内には自社試験農場を設置し、花や野菜の栽培を通じて製品堆肥の品質や生育効果を継続的に検証しています。これにより、製品の安全性と有効性を自社で確認し、品質向上に反映させています。さらに、製品堆肥については毎月、肥料成分分析を実施しています。これにより、製造工程の改善、品質の安定性確認、そして顧客への信頼性向上を図り、地域農業の持続的発展に貢献しています。



# 温室効果ガス削減に向けた取り組み



2050年温室効果ガス(GHG)排出実質ゼロ達成に向け、廃棄物・資源循環分野においては、全国産業資源循環連合会にて、2030年におけるGHG排出量を2010年比15%削減することが目標として設定されました。

KEIYOグループでは、産業廃棄物処分量目標の達成と、国の枠組みであるGXリーグやサーキュラーパートナーズの大きな目標である「2050年カーボンニュートラル」、「脱炭素社会の実現」に貢献します。

## 環境に配慮した取り組み

当社は持続可能な社会の実現に向けて、事業活動全体で環境負荷の低減に取り組んでいます。会社としては、脱炭素社会の実現を目指す企業間ネットワークであるGXリーグ<sup>\*1</sup>や、循環型社会の形成を推進するサーキュラーパートナーズに参画し、社会全体の環境価値向上に貢献しています。

また、各事業所においては、新たに地域の環境施策に積極的に参加しました。具体的には、かながわ脱炭素チャレンジ、CO2CO2(コソコソ)スマート宣言事業所、茨城エコ事業所の制度に登録し、エネルギー使用量の削減、廃棄物削減、再生可能エネルギー活用など、事業所単位での環境改善活動を継続的に推進しています。

これらの取り組みを通じて、当社は環境負荷の低減と持続可能な社会の実現に向けた活動を推進しております。



<sup>\*1</sup> TCFDコンソーシアムおよびGXリーグの活動は、2026年4月よりGXフューチャーコンソーシアムとして統合されます。

## カーボンニュートラル実現に向けたロードマップ

目標値 Scope 1+2	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2040年度	2050年度
本社事務所	営業車(HV、EV、水素)代替							100%EV、水素への検討	
中間処理部門	省エネルギー活動、原油換算1300kℓに削減							省エネの継続	
	フォークリフトの電動化							その他重機の電動化検討	
収集運搬部門	メタンガスの水素化事業・CO <sub>2</sub> の液化炭素ガス事業/地熱利用による電力削減								
	軽油をバイオディーゼル燃料(BDF)に変更								
自家発電	エコドライブ教育							大型車(EV、水素)代替検討	
	ソーラーパネルの既存運用・新規導入による再生可能エネルギー創出増強								
	蓄電池やEV電池による運用								
	バイオガス発電の継続								
購入電力	バイナリー発電の継続・高効率発電対策								
	地熱エネルギー利用								
	再生可能エネルギー由来電力への転換 100%								

## 温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)削減への貢献

2024年度は合計287トンの温室効果ガスの削減に貢献できました。助燃材については、2020年度対比で削減傾向にありましたが、今年度は増加しました。増加の要因は、廃液処理ニーズに対応するために高温熱分解やダイオキシン抑制などの“適正処理”を行った結果であり、これは環境負荷低減のための取り組みでもあります。

CO <sub>2</sub> 削減の取組	バイオガス発電	太陽光発電	バイナリー発電	助燃材の削減	合計
削減量 (t-CO <sub>2</sub> )	299	118	0	-130	287

<sup>\*</sup>バイナリー発電については、発電効率向上対策等により停止していたため。

## KEIYOグループのエネルギー使用量の推移について

2024年度のエネルギー使用量は1,788 kℓ、エネルギー使用による二酸化炭素排出量は3.54 (千t-CO<sub>2</sub>)となり、前年度比で0.42 (千t-CO<sub>2</sub>)増加しました。主な要因は、新たに茨城工場および戸塚工場が加わったことに伴い、廃棄物の受け入れ量が増加したことでエネルギー使用量も増加したためです。また、適用していた標準発熱量係数、炭素排出係数に誤りがあったことが判明したため、本レポートより訂正再計算しております。各施設はロードマップに基づく取り組みに加え、運転の最適化や効率化を継続的に進めることで、エネルギー使用量およびCO<sub>2</sub>排出量の削減に努めています。

